



新しい総合計画策定のための

市民まちづくり研究会

- まちづくり提案書 -

目次

- ◆はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- ◆市民まちづくり研究会からの提案・・・・・・・・・・2
 - A 人を大切にするまちづくり・・・・・・・・・・・・・3
 - B 自慢できるわがまち小牧・・・・・・・・・・・・・6
 - C 地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり・・9
 - D 文化・芸術の薫るまちづくり・・・・・・・・・・・・・13
- ◆“市民まちづくり研究会の提案”の実現に向けて・・・・・・・・16
- ◆参考資料（開催経過）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

平成20年1月

◆ はじめに・・・

この“市民まちづくり研究会”は、小牧市の新しいまちづくりの指針となる「第6次小牧市総合計画」の策定にあたり、市民の意見や想いを計画に反映するとともに、市民と市職員が一緒になって、これからのまちづくりについて考える場として立ち上げられました。

メンバーは、20代から80代までの幅広い年齢層にわたり、学生や会社員、主婦、NPOやボランティアで活動する人、市職員など、職業も多種多様であり、性別や年齢、職業などにかかわらず、小牧市のまちづくりに関わりたいという熱い想いを持った40名が集まりました。

平成19年8月に第1回目の会議を開催して以来、テーマごとに4つのグループに分かれて、『これからの小牧市はこんなまちになったらいいなあ』、『小牧市の良いところ、悪いところって何だろう』、『良いところを活かしたり、悪いところを改善して、思い描くまちを実現するために、市民と行政が共に力を合わせて取り組むべきことは何だろう』というように、全8回にわたって話し合いを重ね、このまちづくり提案書をまとめました。

この提案書は、単に提案としてとどめるのではなく、「第6次小牧市総合計画」へ反映され、今後10年間のまちづくりの中で市民と行政と一緒に協力しながら、できることから順に実現していきたいと考えています。

平成20年1月 市民まちづくり研究会 一同

◆ 市民まちづくり研究会からの提案…

わたしたち“市民まちづくり研究会”は、まちづくりのテーマごとに4つのグループに分かれて話し合い、9つのまちづくり提案をまとめました。

A グループ

【テーマ】人を大切にするまちづくり

【課題】

- ・ 障がい者、高齢者への理解
- ・ 地域の支え合い（3あい事業等）
- ・ 教育の一貫性 など

【プロジェクト】

- ①障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト
- ②次世代のこころ育てプロジェクト

B グループ

【テーマ】自慢できるわがまち小牧

【課題】

- ・ 歴史や街並みを活かした街づくり
- ・ 地産地消
- ・ 生活道路の新設・拡幅、歩車道分離
- ・ バスの運行経路見直し・増設、東西鉄道路線の新設 など

【プロジェクト】

- ③中心市街地活性化プロジェクト
- ④交通問題改善プロジェクト

C グループ

【テーマ】地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり

【課題】

- ・ 自主防災活動の啓発
- ・ 市民の防犯組織拡充
- ・ 交通安全
- ・ 町内会活発化
- ・ ゴミの分別の更なる充実
- ・ 自然エネルギーの活用
- ・ 自然の保全、農業の活性化 など

【プロジェクト】

- ⑤だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト
- ⑥地域の立て直しプロジェクト
- ⑦環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

D グループ

【テーマ】文化・芸術の薫るまちづくり

【課題】

- ・ 文化芸術の振興に関する方針の整備と推進体制の確立
- ・ 既存団体の活性化と文化芸術事業の市民への浸透
- ・ 小牧らしい（小牧独自の）文化芸術活動の創生と推進
- ・ 文化芸術関連施設の充実と既存施設の改善
- ・ 多文化共生社会への市民の啓蒙と地域づくり
- ・ 多文化共生方針の策定と推進体制の確立

【プロジェクト】

- ⑧それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむまちづくりプロジェクト
- ⑨「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

人を大切にするまちづくり

上田幸恵、大田垣隆、尾関三也、勝川正治、末松雅彦、鈴木敏夫、田中初美、野々川英子、橋本真弓、勝山貴之、川尻卓哉

日のあたらない場所に光をあてる。
声を出しにくい人に耳を近づける。
住んでいてよかった、まちにしたい。
生きていてよかった、時代にしたい。
思いのたけを、はっきり伝えたい。
—大切なあなた、大切な私—

小牧市の福祉・教育、市民活動等をみると・・・

【良いところ】

- 第3子から出産奨励手当が出る
- ジュニアセミナーや児童クラブがある
- 地域3あい事業が活発である

【悪いところ】

- 障がい者（児）に対応できるボランティアが少ない
- 福祉についての情報が少ない
- いじめや不登校への対応が不十分
- 学校でルールに甘く、親のモラルが低下
- 地域3あい事業の事業内容・進め方の地域差が大きく、未実施地域が多い
- 次世代育成に一貫性・継続性がなく、「地域ぐるみ」になっていない

【課題】

- ・ 障がい者、高齢者への理解
- ・ 地域の支え合い（3あい事業等）
- ・ 教育の一貫性

など

【プロジェクト】

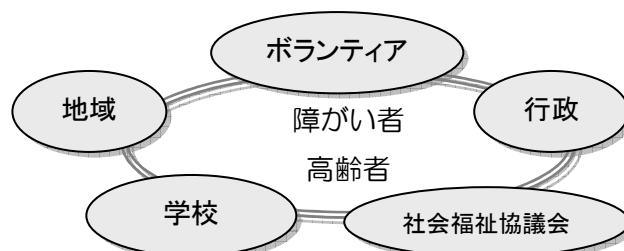
- ①障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト
- ②次世代のこころ育てプロジェクト

障がい者・高齢者をひとりぼっちにしないプロジェクト

<目的>

社会から物理的・精神的に孤立しがちな現状から、制度の改善・充実や、認識を深めることによって、社会の一員としての連帯を強める。

<実施体制のイメージ>



●障がい者や高齢者の立場を「知る」

内容

- 福祉モニター制度の設立
(ボランティア、専門別、会議を重ねる。必要に応じて専門家を加える)
- ボランティア活動の維持・強化
- 学校での「福祉実践教室」の充実(より深く学習し、実際に活動してみる)

市民の役割

- ・情報の収集
・行政へのアピール
- ・多様な参加(お気軽から中核スタッフまで)
- ・教室に講師として参加

行政の役割

- ・情報の分析
・市民への回答
- ・現状を把握し、参加しやすい形態を考える
・ボランティア貯金(チケット)の検討
- ・教育委員会と社会福祉協議会の連携で教室を開く

成果

障がい者や高齢者の情報を共有できる
ボランティアの再生
福祉についての理解が深まる

すぐできること

●障がい者や高齢者が暮らしやすい「環境をつくる」

内容

- ライフサポーター
(地域生活のおたすけマン)
・ファミリーサポートの生活密着型
・高齢者の手伝い
・障がい者の外出介助、買い物介助
- 会員制移送サービス
(車いすごと乗車できる車で、事前に募集した会員は年会費を支払う)

市民の役割

- ・NPO法人(ボランティア募集・教育・コーディネート)
・ボランティア参加
- ・NPO法人の運営、運転
・ボランティアへの登録

行政の役割

- ・資金の提供
- ・NPO法人への助成
・バリアフリーのまちづくり

成果

利用者の安心感と地域の連携が深まる
低廉な料金により気軽に外出できるようになる

次の取り組み

●より開かれた社会を目指す

内容

- オンブズマン制度
(行政活動を調査し、市民からの苦情を処理する機関)

市民の役割

- ・研究会を作る

行政の役割

- ・啓発活動を行う

成果

障がい者や高齢者が社会の一員として活動できるまちになる

長期的な取り組み

2 次世代のこころ育てプロジェクト

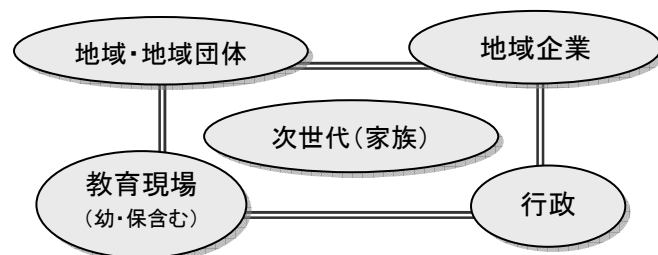
<目的>

まちづくりの基は人づくり、人づくりの基は次世代のこころ育て。

発展し続ける小牧の将来にとって、次世代の育成は、まちづくりの土台をなすもの。

※こころ育てとは・・・豊かな心、生活習慣

<実施体制のイメージ>



●地域と教育現場との連携を強化する

内容

- 地域3あい事業の拡充
- 教育モニター制度（現状・課題を把握し、制度づくりから着手。モニター機能、体制、運用などの検討）
- 小牧版「子ども憲章」の制定

市民の役割

- ・教育現場との緊密な連携（幼・小・中）
- ・次世代のこころ育てに重きを置いたプログラムの推進
- ・次世代育成に係る教育現場・地域の実情把握と報告（提言含）
- ・家庭・教育現場・地域・企業など、全市的な育成指針の共有
- ・いつでも、どこでも、だれもが実践

行政の役割

- ・指導者の育成
- ・全市への拡充
- ・財政支援の強化
- ・次世代育成モニターの設置（公募含）
- ・全市的教育施策への反映
- ・憲章制定の主導
- ・地域リーダーの育成と実践指導

成果

- ・次世代のふれあいの場づくり
- ・社会教育の充実
- ・次世代育成に係る重要な問題の一貫性・均質性・継続性の確保
- ・学校間格差、地域格差の是正
- ・縦割行政の補完
- ・家庭教育力の向上
- ・地域力の再生
- ・子ども自らの自制心・規範意識の向上

●地域ぐるみの次世代育成

内容

- 次世代育成コミュニティ協議会の設置
（1～2年以内にトライアル版を実施）

市民の役割・教育現場

- ・地域を形成する地域組織・地域団体・地域企業と教育現場による次世代のこころ育て
- ※全ての教育現場に地域コーディネータの配置

行政の役割

- ・指導・助言
- ・財政支援

成果

- ・地域課題の共有化
- ・地域力の再生
- ・地域ぐるみの次世代育成の実現
- ・住みたいまち「小牧」の実現



自慢できるわがまち小牧

井戸田鎭男、大野英隆、落合弘、齊田一郎、長谷川泰洋、松田敏弘、
鵜飼達市、小川尋典

わが小牧は名古屋の北部近郊に位置し、古くから「飛行場のある街」として広く知られてきた。昭和30年市制施行と相前後して開通した3つの高速道路（東名・名神・中央道）により、文字通り陸路・空路と二つの玄関を持つ理想的な立地都市として、積極的な工場誘致で目覚しく発展し今日、「裕福な都市小牧」として、知る人ぞ知るようになったことは周知の通り、ある意味では自慢できる街となった。

しかし、裕福な都市として知名度は広まったものの、この先将来を担う我々の次世代が安心して暮らせるような「街づくり」は、残念ながら出来ていないと思います。

何故ならば、小牧駅を中心とした市街地に賑わいを感じないからです。賑わいは街の活気のバロメーターです。それはいったい何が原因しているのか。街に魅力がないのか、それとも魅力はあっても気付かないだけなのか。

それらの観点から掘り下げた結果、「市街地の活性化は、交通基盤の整備から」という定説に基づき次なる提案をするものです。

小牧市の中心市街地、交通、道路をみると・・・

【良いところ】

- 産業基盤が強い
- 市の財政が豊かである
- 幹線道路の整備が進んでいる
- 小牧線が地下鉄と直結
- 歴史がある
- 古い町並みが残っている
- 農協で地産地消の取り組みがある

【悪いところ】

- 中心市街地に人が集まる施設・活用する施設がない（市民会館・図書館）
- 中心市街地に店舗が少なくなっている
- 素敵なコンサートホールがない（市民会館は老朽化、音響効果が悪い）
- 文化施設がなく、催し物（趣味嗜好、芸術など）を通じた交流の場が少ない
- 出掛けたくても好みのサークル・同好会・道場など、情報伝達が不十分
- 市街地への交通の便が悪い・出掛けたくても不便（バスが不便）
- 生活道路の道路幅が狭い、歩道が狭い、道路が渋滞する
- 自動車中心で歩行者、自転車用の道路が少ない（安全性にかける）
- 東西の公共交通機関がない

【課題】

- ・ 魅力ある施設の建設
- ・ 駅の西地区（小牧商店街）の復興「トランジットモールの導入、集客イベントの豊富な企画」
- ・ 歴史や街並みを活かした街づくり
- ・ コミュニティ道路
- ・ 交差点の改良、交通安全装置（信号機・右左折路線）
- ・ バスの運行経路の見直し、増設
- ・ 将来ビジョンとして東西鉄道路線（JR春日井駅—小牧—JR一宮）の新設
- ・ 歩車道の分離
- ・ 生活道路の整備・新設

【プロジェクト】

- ③中心市街地活性化プロジェクト
- ④交通問題改善プロジェクト

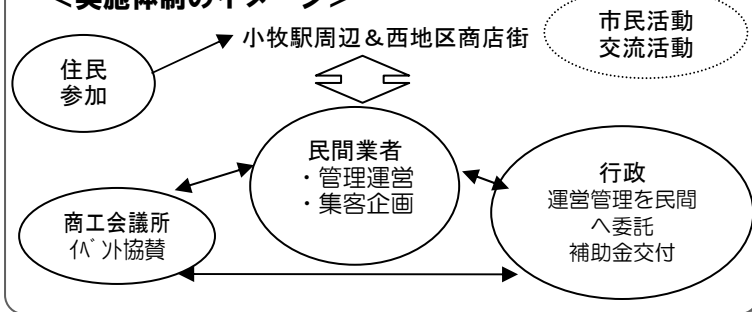
3 中心市街地活性化プロジェクト

<目的>

- ・民間運営の文化施設の建設、魅力ある施設・店舗の併設
- ・西地区商店街と一体化した、各種イベントの企画
- ・並行的施策として市民の足となる公共交通の至便化

※小牧駅周辺及び西地区商店街一帯をいう

<実施体制のイメージ>



●構想・イベント・街並み整備

内容

- 文化施設の設置構想
- イベントの企画（地産地消の市等）
- 歴史を活かした街並み整備、一里塚の設置（メインストリート）

市民の役割

- ・要望意見を言う
- ・中心市街地の見直し
- ・青空市、イベントへの実施及び積極参加
- ・農家・商店街・サークル等各種市民団体へ声掛け
- ・一里塚の意義を認知
- ・歴史への興味・関心

行政の役割

- ・市民の要望を聞く
- ・文化施設の委託
- ・イベント支援
- ・既存商店街の復興支援
- ・歴史の掘り起こし
- ・ポイントの設置

成果

- 小牧商店街の復興
- 文化的交流の活発化
- 歩いて楽しい市街地

すぐに行けること

●歴史を活かした街並み整備

内容

- メインストリートの整備（信長にちなんだ整備、一里塚の整備等により、散策の楽しい街に）
- トランジットモール化の段階的導入
- 文化施設の設置及び魅力施設の検討

市民の役割

- 小牧山の歴史の掘り起こし、郷土史家との連携
- 歴史講座への参加
- メインストリートのワークショップ方式による整備計画の策定
- 積極的な参加

行政の役割

- 「信長サミット」の開催、史実を全国に告知
- 大学と連携で歴史講座の開設と運営
- メインストリートを経史の散歩道として整備（歴史の案内板、一里塚の設置）
- 夜間大学院・語学塾等の講座の設立

成果

- 郷土小牧への愛着・誇りの増加
- 市民、行政、大学、企業の協働体制の確立
- 市民のまちづくりへの意識向上
- 小牧市の産業と講座の連携による小牧の発展

次の取り組み

●人の集まる公的施設の整備・運営

内容

- （特定業務代行方式）による公共施設ビルの建設・設置（図書館、文化芸術施設、夜間大学）
- 魅力ある施設の建設（飲食街、物販、風呂、交流の場）
- メインストリート（小牧駅から小牧山）の整備、トランジットモール化

市民の役割

- 利活用の促進
- 積極的な利活用
- イベントの開催・参加
- 要望・意見の提示

行政の役割

- 広報、PR活動の援助
- 民間団体・高齢者の積極的活用
- 業務時間の延長
- 運営委員会にて検討・実施

成果

- 民間組織による新しいシステムの図書館、市民会館、音楽ホールの運営
- 昼夜を通しての中心市街地のにぎわい創出
- 歩行者中心の市街地を実現

長期的な取り組み

4 交通問題改善プロジェクト

<目的>

昔から、陸の孤島といわれていた。だから将来ビジョンとして東西鉄道がほしい。

現状の巡回バスについても、迂回経路が多く中心地までの時間が掛かりすぎる。だから、役に立つと思う人が少ない。よって利用者が少ない。マイカーの方が便利であり、依存度が高い。従って、バス路線を見直し、バスダイヤを増発する案を提案する。

※バス運行イメージ（3区分）

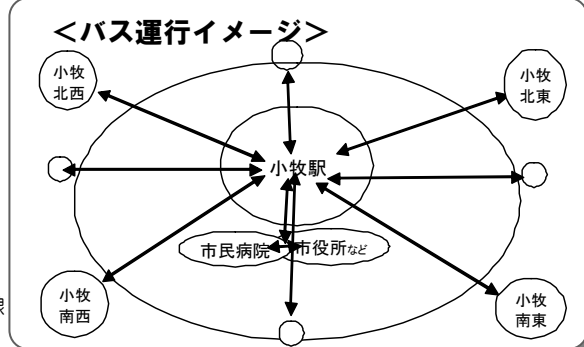
①通常バス—小牧駅と市内東西南北の各地を直線的路線と小牧駅と市役所病院等へのシャトル路線

☆通常バス…終点までの時間短縮を主眼

②遊覧バス—小牧駅起点、観光ビュースタンドで史跡、名所、温泉等、市内遊覧（環状外回りと内回り）

☆通常バスの放射運行を遊覧バスの環状運行によって横断的に補充する

③だれどこバス—自由な乗降。トランジットモール内の運行



●交通網の見直し

内容

- バス路線の見直し
- 矢印信号の設置等、交差点の改良による渋滞解消
- 歩道・自転車道の見直し
- デマンドバスの採用・検討

市民の役割

- ・地域の意見要望を言う
- ・マイカーを自粛、バス利用を心がける
- ・渋滞路線のリストアップ
- ・歩道・自転車道の見直し等要望提出
- ・デマンドバス研究

行政の役割

- ・市民の要望を聞く
- ・バス路線の見直し
- ・市役所・病院のシャトルバス（ミゴン）
- ・交差点の改良工事実施
- ・歩道・自転車道の設置
- ・デマンドバスPR

成果

バス利用の促進により、夜間の飲食等へのアクセス改善により、夜間のにぎわいの創出が可能になり特に、飲食の営業に寄与できる
（便利になれば、バス利用は増える）

●道路網の整備と循環バスの運営管理形態

内容

- バスの運行種類
 - A 通常バス
 - B 遊覧環状バス
 - C 仮称「だれどこバス」
- バス運行管理主体等選定
 - ・NPO等設立、・民間委託
 - ・指定管理者方式
- 道路網の更なる整備
 - ・拡幅、歩車道区分、交差点信号機の改良、バス優先道の整備

市民の役割

- ・自動車をやめて積極的に利用（切替）する
- ・定期的な利用状況のモニタリングに協力する
- ・その他理解と協力を惜しまない

行政の役割

- ・バス運行管理主体への補助金（委託）の交付
- ・市内工場勤務者の公共交通通勤切替え調停
- ・福祉事業の感覚での取組
- ・バス利用奨励策の考案
- ・バス利用者への買物等優待券の交付（商店・市施設協賛）
- ・誕生日乗車は無料など
- ・暮らしの道ゾーン等、国交省の補助対象事業導入

成果

便利になれば高齢者でも出掛ける機会が増えて健康的な市民社会が期待できる
便利になれば、市内遊覧散策的に史跡めぐり等が楽しくなって街が賑わう
マイカー通勤減少し環境対策にも効果
便利なバスは利用者が増え黒字事業としても期待できる

●トランジットモール（歩行者・自転車優先の街づくり）

内容

- トランジットモールでの「だれどこバス」の運行
- 市内の各地に「暮らしの道ゾーン」設置
- 将来ビジョンとして「東西鉄道路線」の新設
（JR春日井—小牧—江南—JR一宮）

市民の役割

- ・マイカーを止めて積極的にバスを活用する
- ・遊覧バスにて、名所旧跡巡りを楽しむ
- ・地域選定等に理解と協力を惜しまない
- ・大ビジョンであり鉄道路線の必要性を理解する

行政の役割

- ・当該商店街及び警察との調整
- ・ゾーンの意義を広報等積極的にPRし浸透を図る
- ・県及び関係市町への共同取組み

成果

だれどこバスの運行は市内外に反響が期待され街が賑わう
市内各地の名所の一つとなり、市内遊覧環状バスとの相乗効果で賑わう
社会人口の受入・流入など容易となり、将来的にも強い産業基盤の維持が容易となる

地域力の活性化で安全・安心と環境を守るまちづくり

青山弘光、長田稔公、**木戸人師**、高井三郎、辻畑勲、鳥居由香里、西尾貞臣、丹羽富郎、安部美早恵、橋本典子、長谷川隆司

「地域力」とは、地域の問題を発見して、その問題を解決する力です。

少子高齢化、犯罪など、地域を取り巻く問題について、みんなで考え、「自分たちの暮らしは、自分たちで守る」意識を持つことが大変重要になってきています。

地域での日常的なあいさつ、声かけ、地域リーダーの養成、区長を含めた地域のあり方の見直しなどを通して地域力を活性化し、自分たちの暮らす地域の「安全・安心」と「環境」を守るため、3つのプロジェクトを提案しました。

小牧市の安全・安心と環境をみると・・・

【良いところ】

- 自主防犯組織が生まれてきた
- 防犯パトロール隊の活動
- 持ち家が多く、空き家が少ない
- 集会場が多くある、90ヶ所
- 近所づきあい、隣同士で助け合いがある
- 組織が確立されている区自治会 125区、区自主防災会 129団体
- ゴミの分別がすすんでいる
- 自然が多い（緑豊か）

【悪いところ】

- 犯罪件数が多い
- 防災に対する意識が低い
- 学校周辺でも歩道が整備されていない
- 区の自治会活動に温度差がある
- 地域活動への参加者が少ない
- ポイ捨てが多い
- 公害が多い
- 地球温暖対策が遅れている

【課題】

- ・ 自主防災活動の啓発
- ・ 市民の防犯組織拡充
- ・ 交通安全
- ・ 町内会活発化
- ・ ゴミの分別の更なる充実
- ・ 農業の活性化 など
- ・ 自然エネルギーの活用
- ・ 自然の保全

【プロジェクト】

- ⑤だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト
- ⑥地域の立て直しプロジェクト
- ⑦環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

5 だれもが安心して暮らせるまちづくりプロジェクト（防災、防犯、交通安全）

<目的>

子どもから高齢者まで市民だれもが安全で安心して暮らせるまちづくりを目指して、防災、防犯、地域福祉活動などを進め、明るい地域社会づくりに貢献することを目的とする。

<実施体制のイメージ>



●地域住民の“自助”意識を高める ―自分でできることは自分でする―

内容

- 地震発生シミュレーション（知識の取得）
- 耐震性に不安のある建物の検証
- 家具の転倒防止対策
- 非常持出品の確保
- 災害伝言ダイヤル 171 の周知

市民の役割

- ＜具体的なシミュレーション＞
知識を身につけるマニュアルの作成
勉強会、講習会の実施
- 耐震診断、家具固定、
施錠の励行(ワド・アッロック)
火災報知器の設置
- 各家庭で万が一に備えて
話し合い、連絡方法・
避難場所の徹底

行政の役割

- 自治会の人材育成
取組状況の把握
- 消防本部による市民各
位の防災対策チェック
- 行政・災害ボランティアによる
市民に対する防災講習会・
会議を開く

成果

- 家庭内での対話が進み良好な相互信頼が高まる
- 家庭愛が深まり命の大切さを
知り、協調性が向上する

すぐにできること

●地域の“共助”意識を高める ―日頃から地域で助け合う―

内容

- 災害に備えて組織（自治会、自主防災会）で啓発活動を実施する
- 地域に根付いた地域ぐるみでの活動（自分の住むまちをみんなで見直す）

市民の役割

- 協議会に参画し諸行事(防災訓練、防犯パトロール、交通安全ボランティア)に進んで参加
- 災害弱者の実態把握
災害時要援護者支援制度の地域での展開
通学路の実態把握(危険箇所の点検、信号機の有無のチェック)
- 子ども、高齢者を巻き込んだ研修会
区長講話の実施

行政の役割

- 区、コミュニティに対し教育、指導、現状把握
広報活動（情報収集・提供）
- 集会施設の有効活用・提供
関連行政機関との調整
- 活動資金のバックアップ
防災・防犯・交通安全教室の開催

成果

- 互助の協調性向上
- 一軒両隣付き合いが良くなり安心感の波及効果大
- 安全・安心なまちとなり地域力がつく

次の取り組み

●公助・継続・定着

内容

- 地域の防災・防犯・交通安全は息の長い活動
- 実施事項を継続して定着させる（本音の活動を定着させ継続して実施）
- 安心して歩くことができるまち（生活道路の整備・確保）

市民の役割

- 地域組織の強化、三世代での取組、継続的な活動（駅伝活動による後継者育成）、賢い市民
- 災害ボランティア・あいち防災リーダー会、防犯ボランティアの活動支援の定着化
- 危険箇所のリストアップ（車いすでも通れる歩道）

行政の役割

- 防災・防犯・交通安全活動支援（資金面）
- 制度化、仕組みづくり
企業との連携
近隣市町との連携
- AEDの設置
ライフラインの整備・充実

成果

- だれもが（子どもから高齢者まで）まさしく安全・安心して暮らせるまちづくりとなる
- まちなみの景観がよくなる波及効果

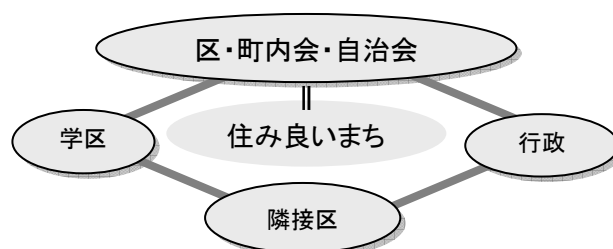
長期的な取り組み

6 地域の立て直しプロジェクト

<目的>

「住みよいまちは自分たちで創る」

<実施体制のイメージ>



●できるだけ多くの人に参加してもらう

内容

- 町内会・自治会への加入率の向上
- 日常の活動を開示する
- 役員の業務と責務を明確にする
- 町内会・自治会に対する住民の意見の収集

市民の役割

- 町内会・自治会の必要性を認識する
- 活動の企画、報告回覧の実施
- 住民へのアンケートの実施及び公開

行政の役割

- 地域の生活は地域で守ることの重要性を啓蒙
- 行政、町内会・自治会の活動範囲を市民に啓蒙
- 原案等の指導、援助

連携

支援

支援

成果

活動がわかってくる

●継続して参加できる環境をつくる

内容

- 若い住民・外国人・新住民の参加
- 必要経費の支出
- 隣接区との横のつながり（学校単位）

市民の役割

- 活動の目的を明確に伝える慣例にとらわれない
- 会則、規定の確立
- 情報交換の場を設ける

行政の役割

- 通訳ボランティアの派遣
- 助成金の見直し
- 地域リーダーの育成・指導、場所の提供

連携

支援

連携

成果

自主的に参加する人が増える

●いろいろな人に役割をもってもらう

内容

- 元気な高齢者・退職者を活用する
- 関連組織との連携
- 自主自立の地域コミュニティの確立

市民の役割

- 常設専門委員会の設置
- 情報の共有、連絡網の整備
- 協調のとれた明るい町内

行政の役割

- 専門的知識の指導、研修会の開催
- ネットワークの構築
- 住民参加の行政

連携

支援

連携

成果

町内会・自治会が組織として確立する

すぐに取り組む

次の取り組み

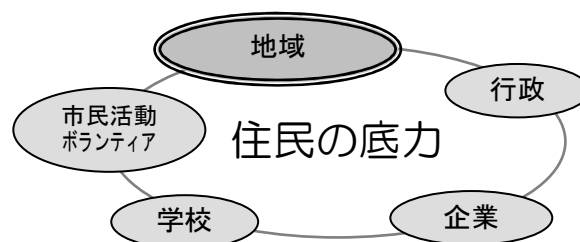
長期的な取り組み

7 環境を守る美しいまちづくりプロジェクト

<目的>

環境宣言にふさわしいまちづくり。
気持ちよく生活ができ、誇れるまち。

<実施体制のイメージ>



●みんなで美化活動

内容

- 徹底したゴミの分別
- 小学校、中学校「ゴミ教室」と地域指導（外国人指導）
- 地域の清掃活動

市民の役割

- ・正しい分別
- ・ゴミ集積所の清掃
- ・市民またはボランティア、市民活動団体が講師として協力
- ・地域の530運動（年2回）
- ・地域清掃隊（楽しいグループ）

行政の役割

- ・資源ゴミのPRと指導
- ・イベントでPRコーナー
- ・講師の派遣
- ・講座の企画
- ・国際交流協会で開催
- ・企業に協力要請
- ・こまき530運動の日の設定
- ・ポイ捨て運動のPR
- ・ゴミレンジャーズでPR

成果

- 地域内の美化
- 地域内の交流
- ゴミ分別知識の向上
- 子どもの育成

すぐに取り組むこと

●ゴミが資源になる

内容

- 新エネルギーの活用と省エネ、省ゴミ、非電化製品の普及
- まちのグリーン化
- 生ゴミの資源化促進

市民の役割

- 新エネルギー等の活用
- 地域清掃隊が清掃をかねて環境調査とPR（グリーンマップ）
- ・生ゴミをたい肥化して野菜づくり
- ・市民の講師協力

行政の役割

- 新エネルギー等のPRと補助
- PR（広報活動）
- 環境政策の作成
- ・休耕田の活用で市民農園
- ・市民への野菜づくり指導

成果

- 市の収入UPと税金減額化
- 農地の有効利用
- 市民の食育

次の取り組み

●持続可能な社会

内容

- ゴミのエネルギーシステムの構築
- 自然の保全
- 農業と里山の活性化

市民の役割

- バイオエネルギーの活用
- 里山手入れの手伝い
- 里山の工芸づくり
- 耕作者の募集

行政の役割

- バイオエネルギーの活用
- 企業への協力要請
- 収穫祭
- 里山文化の育成
- 農業の法人化、企業参入
- 自然の保全地域の指定

成果

- エネルギーの自給力
- 自然豊かなまち
- 食の自給力
- 災害防止
- 地域交流
- 人づくり

長期的な取り組み

文化・芸術の薫るまちづくり

加藤鐘三、柴田緑、園山忠、玉井幸、西山武、林岸子、堀孝次、吉田勉、瀧頭郎、吉田隆

Dグループには、「こまき市民活動ネットワーク」に登録された団体で活動している人が多いこともあり、第1回目の研究会のテーマである「小牧のまちづくりへの期待」の話し合いでは、**文化芸術の振興**や、**多文化共生**に期待する多くの意見が出された。

文化芸術の振興は、市民の創造性をはぐくみ、相互に理解尊重し合い、多様性を受け入れることのできる心豊かな社会の形成に寄与する。こうした観点から、文化芸術の振興は、まちづくりの中核であり、全てのまちづくりのテーマに関連する重要な事項であるといっても過言ではない。

しかしながら、小牧の現状分析資料や、市民意向調査結果からもうかがえるように、文化芸術振興の重要性や種々の文化芸術活動が、小牧市民全体に十分浸透していないと判断される。

「活気ある緑豊かな生きがいのある文化都市」、「人と緑 かがやく創造のまち」を将来像として目指してきた小牧市にとって、多文化共生社会の形成が避けて通れない小牧市にとって、文化芸術を振興し、『文化・芸術の薫るまちづくり』を推進することが極めて重要な課題であるとの熱い思いが提案の背景となっている。

小牧市の文化・芸術、多文化共生をみると・・・

【良いところ】

- 市の将来像として、「文化都市」「人と緑 かがやく創造のまち」を目指してきた
- 数多くの文化・芸術に関する活動団体がある
- 生涯学習講座が充実している
- 小牧山代表とする史跡や歴史、豊かな自然がある
- 市内にメナード美術館や名古屋造形芸術大学・愛知文教大学がある
- 中部フィルハーモニー交響楽団を支援している
- 文化・芸術活動を支援できる財政状況である
- 国際交流に貢献する事業を行っている（KIA）

【悪いところ】

- 「文化振興ビジョン」の重要性が十分に理解・浸透していない
- 文化・芸術を振興する体制が十分ではない
- 文化・芸術に関する各種の活動が市民に広く浸透していない
- 史跡や歴史、自然が十分に活用や保全されていない
- 美術館・造形大学・交響楽団との協働によるまちづくりがまだ十分ではない
- 文化・芸術活動に必要な施設が十分でない
- 多文化共生に関する市民の意識が低い
- 多文化共生社会の形成に関する方針や推進体制が十分ではない

【課題】

- ・ 文化芸術の振興に関する方針の整備と推進体制の確立
- ・ 既存団体の活性化と文化芸術事業の市民への浸透
- ・ 小牧らしい（小牧独自の）文化芸術活動の創生と推進
- ・ 文化芸術関連施設の充実と既存施設の改善
- ・ 多文化共生社会への市民の啓蒙と地域づくり
- ・ 多文化共生方針の策定と推進体制の確立

【プロジェクト】

- ⑧それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむまちづくりプロジェクト
- ⑨「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

8 それぞれの文化 さまざまな芸術を楽しむ まちづくりプロジェクト

<目的>

行政と市民・文化芸術関連団体（※）の協働により、文化芸術を振興し、市民一人一人が、それぞれの文化、さまざまな芸術を日常生活の中で楽しむことができるまちづくりをすることは、人々の創造性をはぐくみ、相互に理解・尊重し合い、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成することに貢献する。

また、文化芸術の振興は、小牧市の総合計画や、今後の課題である多文化共生社会形成のベースとなる。

<実施体制のイメージ>



※文化芸術関連団体は、メナード美術館・名古屋造形芸術大学・愛知文教大学・中部フィルハーモニー交響楽団を指します。

●既存団体の活動を充実するとともに、小牧の文化芸術の状況を検証する

内容

- 既存の文化芸術団体の活動を充実し、新規会員を増やす
- 文化資源の活用・文化活動・関連団体との協働について検証する
- 文化芸術施設を充実すると共に、既存施設を利用し易くする

市民の役割

文化芸術団体間の交流促進、新規会員の勧誘

文化資源の活用・関連団体との協働に関する提案

新規施設開設に関する提言、既存施設利用に関する改善提言

行政の役割

文化芸術団体の広報、作品展・イベント開催時の支援

文化芸術振興状況に関する検討会議の企画、文化振興ビジョンの見直し

市民ギャラリーの開設、既存施設の利用方法の見直し

成果

既存の文化芸術団体の活動状況や課題が把握できる

史跡・文化財活用法、関連団体との連携について課題が分かる

文化団体の活動が充実する

●地域の特色ある文化資源の発見と創生が始まる

内容

- 各地区に埋もれた文化芸術活動に注目する
- 小牧の史跡・文化財・伝統芸能・自然を活用した新たな文化芸術活動を発見する
- 関連団体との協働による文化芸術振興策を検討する

市民の役割

地区独自の文化芸術活動やイベントへの積極的な参加

史跡・文化財・自然等の活用に関する提言やイベントの模索

美術館・大学・交響楽団との協働による事業の提案と積極的な参加

行政の役割

文化芸術振興条例の制定と推進体制の充実、地区活動に対する支援

史跡・文化財・自然等の活用に関する検討会の企画

美術館・大学・交響楽団との協働によるまちづくり検討会の企画

成果

新たに文化芸術活動に参加する人が増えてくる

小牧の文化芸術資源を活用した新たな活動が芽生える

各地区の文化芸術活動にスポットがあてられる

●小牧らしさのある文化芸術活動、市民主体の活動が盛んになり、市外から注目される

内容

- 小牧らしい（小牧独自の）文化芸術イベントを開催する
- 文化芸術関連施設を充実する
- 市民主体の文化芸術活動を推進する

市民の役割

近隣から注目される文化芸術イベントの企画と開催

新しい施設の提案

文化芸術活動への積極的な自主参加

行政の役割

イベントの支援、近隣自治体への紹介

専用ホール・個展会場などの開設

広報等の文化芸術紙面の拡充

成果

市民が自己実現を目指した活動をする

総合計画の他分野推進に貢献する

近隣自治体から、市民主体の文化芸術活動が盛んな都市と認知される

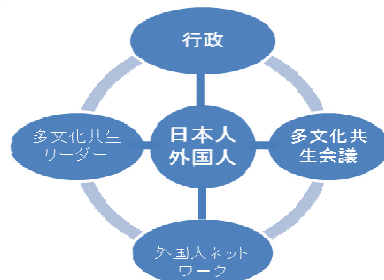
9 「小牧は一つ 地球家族」と皆が思うまちづくりプロジェクト

<目的>

平成19年12月時点で、居住外国人が市の総人口の約6%を占め、これからも増加することが予測される小牧市にとって、多文化共生社会の形成は、極めて重要な課題の一つである。

日本人と外国人の垣根を取り除き、共に生きるパートナー、地球家族として、お互いに支え合う関係を築くことを目指し、行政・市民・企業（※）が一体となって活動することを目的とする。 ※外国人を多く雇用する企業を指します

<実施体制のイメージ>



●みんなが、外国人が増えている理由や、多文化共生社会のことを知る

内容

- 外国人の多い地域の住民に、多文化共生に関する意識啓発を行う
- 地域に住む外国人と接する機会を増やす
- 地域との関わりや、地域貢献を願う人達を支援する

市民の役割

- セミナーや講演会への参加、居住外国人に関する支援策・課題の提言
- 地域活動や各種イベントへの積極的な勧誘、外国人への情報提供
- 既存の市民団体や地域のグループなどの活動紹介

行政の役割

- 居住外国人・多文化共生に関するセミナーや講演会の企画
- 地域活動やイベントの支援、コミュニケーション支援の充実
- 地域デビューを支援する仕組み作り、講演会の講師手配

成果

- 多文化共生社会のことを理解する市民が増える
- コミュニケーション支援が充実する
- 各地域に多文化共生リーダーが芽生える

●外国人と交流する機会が増え、多文化共生社会の形成に向けた取り組みが始まる

内容

- 多文化共生施策を整備する
- 地域リーダーが中心となり多文化共生へ向けた地域づくりを進める
- 外国人の生活支援（住居・教育・医療・防災など）を充実する

市民の役割

- 課題の収集や解決策の提言
- 外国人に対する自治会活動への勧誘
- 外国人との交流を通じて、生活支援策の提案

行政の役割

- 多文化共生推進の担当部門の強化、多文化共生会議の企画
- 地域リーダ会の企画、イベントの支援
- 生活支援策の整備と実行

成果

- 多文化共生に関する、課題や対策が明らかになってくる
- 各地域の多文化共生リーダーの活動が盛んになる
- 生活支援が充実する

●行政・市民・企業・が一体となって、「地球家族宣言」を行う

内容

- 「小牧は一つ 地球家族宣言」をし、外国人の地域社会への参画を促進する
- 外国人のネットワークを構築する
- 外国人の労働環境を改善する

市民の役割

- 外国人と一体となった、自治会活動の推進
- 外国人ネットワークとの連携したイベント・交流会の開催
- 企業市民として労働環境改善に取り組む

行政の役割

- 多文化共生推進条例の制定、地球家族宣言の浸透
- 外国人ネットワーク構築支援
- 外国人雇用企業との協議や指導

成果

- 多文化共生に対する、行政・市民・企業の役割や責任が明らかになる
- 外国人と個人的な交流する人が増える
- 外国人にとって、小牧が住みやすいまちになる

◆“市民まちづくり研究会の提案”の実現に向けて…

わたしたち“市民まちづくり研究会”からの提案は、これからの小牧市が「こんなまちになったらいいなあ」という思いを描き、10年後、私たちが思い描いた小牧市にするために何をすればよいかをとりまとめたものです。

提案には、小牧市を良くするために市民レベルで取り組まなければならないものから、市民と行政が一体となって取り組むべきものまで、さまざまなものがあります。

そのため、提案の実現に向けては「市民・市民団体」、「企業・事業所」、「行政・公共的団体」の三者の連携を強化することが必要です。

そして、この提案が新しい小牧市のまちづくりの指針となる総合計画に盛り込まれ、三者の協働により実現していくことを期待しています。

総合計画の浸透や実現に向けて…

- 私たちは、今回の提案を持って終りとすることなく、今後も市民として、市民団体として行政に深く関心を持ち、市民としての責任を果たしていきます。

- 最後に、第6次総合計画の具体的な実現に向けて、以下のことを提案します。

- ① 市民・企業・行政がそれぞれの立場で、各自の役割を果たす。
- ② 総合計画の浸透や実現を目的とした、宣言や条例の制定を行う。
- ③ 市民・企業・行政の協働による研究会・委員会を定期的に行う。
- ④ 状況の変化に対応しながら、進行状況をチェックし、それを公表する。

「市民による市民のためのまちづくり！」を基本に…

- 私たち市民レベルで取り組まなければならないことは、自主的にできることから取り組み、提案を実現していきたいと思います。

まじめに、粘り強く、いきいきと

「本気・根気・元気」の思いで、明日の小牧を築きましょう！

◆参考資料

＜開催経過＞

回	開催時期	内 容	備 考
第1回	8月21日 (火)	・ オリエンテーション ・ 小牧市のまちづくりを学ぶ ・ 小牧のまちづくりへの期待	まちづくり研究会の目的の共有化 市民からみた小牧市の将来像を整理
運営委員会	8月31日 (金)	・ まちづくり研究会の進め方について	各グループより運営委員が出席し、今後の進め方について検討
第2回	9月13日 (木)	・ グループ検討テーマの確認 ・ 小牧市の良いところ・悪いところ	グループ検討テーマ（対象分野）の確認 課題の共有化
第3回	10月3日 (水)	・ 課題解決のために取り組むべきアイデア	課題解決のアイデア出し
第4回	10月17日 (水)	・ テーマ別プロジェクトの提案①	プロジェクトの提案 ・ 市民と行政が力を合わせて優先的に取り組むべきプロジェクトの設定 ・ プロジェクト内容の検討 ・ 市民・行政の役割、連携方策の検討 ・ 成果目標の検討
第5回	11月5日 (月)	・ テーマ別プロジェクトの提案②	
第6回	11月20日 (火)	・ テーマ別プロジェクトの提案③	
第7回	12月3日 (月)	・ 実現化方策の提案	全体で実現化方策の検討
第8回	12月19日 (水)	・ 提案書のとりまとめ ・ 発表会準備	提案書の完成
発表会準備	1月23日 (水)	・ 提案発表会の進め方について ・ 発表会リハーサル	提案発表会の進め方について検討
発表会	1月31日 (木)	・ 提案発表会	公開での発表会 市長へ提言書の提出

《委員》 40名

(五十音順)

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
上田 幸恵	井戸田 鎔男	青山 弘光	加藤 鐘三
大田 垣 隆	大野 英隆	長田 稔公	柴田 緑
尾関 三也	落合 弘	木戸 人師	園山 忠
勝川 正治	斉田 一郎	高井 三郎	玉井 宰
末松 雅彦	長谷川 泰洋	辻 畑 勲	西山 武
鈴木 敏夫	松田 敏弘	鳥居 由香里	林 岸子
田中 初美	鵜飼 達市	西尾 貞臣	堀 孝次
野々川 英子	小川 尋典	丹羽 富郎	吉田 勉
橋本 真弓		安部 美早恵	瀧 顕郎
勝山 貴之		橋本 典子	吉田 隆
川尻 卓哉		長谷川 隆司	



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



新しい総合計画策定のための 市民まちづくり研究会

- まちづくり提案書 -

平成 20 年 1 月